

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育力・組織力・企画力を構成要素とする「学校力」のさらなる向上を図ることにより、生徒一人ひとりの個性・能力を最大限に伸ばすとともに、自ら目標を定め、その実現に向けて全力で努力する生徒を育てる。

1. 学習指導・進路保障体制の一層の充実により、「生徒を伸ばし、伸びいく学校」をめざす
2. 主体的・自律的な努力を怠らず、自己の向上に努める生徒を育成する、「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」をめざす
3. 自己表現力、コミュニケーション能力を育て、国際社会で活躍する人材を育成する、「グローバルに考え、行動する学校」をめざす

2 中期的目標

【次なる 50 年に向かって颯爽と】

→ 平成 24 年に 50 周年を迎えたことを踏まえ、これまでの伝統の継承・さらなる発展と、より多くの「颯爽」たる若者（枚方高校校歌の一節「颯爽たり 枚方」に因む）を育てていくことへの決意を込めて、これを合言葉としたい。

1. 「生徒を伸ばし、伸びいく学校」の実現に向けて

- (1) 生徒一人ひとりが、自己実現を果たしていくために必要な「確かな学力」を身に付けることができるよう、全教員の「授業力向上」に取り組む。
 - ・各教科において一層明確な「学習到達目標」を設定し、指導と一体のものとして毎年度検証、改善していけるシステムを構築。平成 29 年度入学生から本格的に実施していけるよう、今年度よりカリキュラム改善にも着手。
 - ・ICTの積極的活用の推進等を含めた「今後における新しい授業のあり方」についての校内研修をさらに充実させ、学校全体の取組みに発展させる。この取組み等により、平成 29 年度までに、学校教育自己診断（以下「自己診断」という。）における「教え方に工夫している先生が多い」の肯定率を 75%以上（H27 年度 68%）するとともに、授業アンケートにおける満足度を 3.10 以上に。（※「満足度」とは、授業アンケート「問 8 授業内容に興味・関心を持つことができた」及び「問 9 知識・技能が身に付いた」についての全教員の評価平均（4 点満点）、H27 年度 12 月調査 3.05）
- (2) 夢と志を持つ生徒の育成を図るとともに進路保障体制をさらに充実させる。
 - ・最後まであきらめずにチャレンジする生徒を育てることにより、平成 29 年度には現役生の国公立大学合格者を 10 人以上に（H27 年度 4 人）。
 - ・生徒支援体制を一層充実させ、自己診断における「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」の肯定率を平成 29 年度には 75%以上に（H27 年度 63%）。
 - ・キャリア教育・人権教育・国際理解教育等を 3 年間で体系的に実施できるよう、平成 29 年度入学生からを目標として、総合的な学習の時間を抜本的に改善。
 - ・生徒の表現力を高め、創造力をより豊かなものにしていくため、教科を問わず読書指導を推進するとともに、今年度より自己診断に読書活動に関する項目を設け、その評価指標としていく。

2. 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現に向けて

- (1) 学校行事の充実、部活動の活性化を図る。
 - ・学校行事については、生徒の主体的な取組みを一層支援し、自己診断における「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率 90%以上を達成し、維持していく（H27 年度は 89%）。
 - ・部活動加入率について、平成 29 年度には 80%以上を達成するとともに、一層の増加をめざす（H27 年度 5 月調査 75%）
- (2) 生活規律を確立させる取組みを充実させる。
 - ・遅刻者数について、年間 1,000 未満を維持するとともに、一層の減少に向けて、指導を継続していく。
 - ・制服の着こなし等、身だしなみに関する指導の充実、自転車の乗車マナーを含めた交通安全指導の充実を図る。

3. 「グローバルに考え、行動する学校」の実現に向けて

- (1) 授業だけでなく、教育活動の様々な場面において、「使える英語力」の伸長を図る。
 - ・大学等の協力を得て、「イングリッシュキャンプ」等の取組みを継続的に実施できる環境を整備する。
 - ・英語検定、TOEIC 等の受検を推奨するとともに、それに向けた準備講習等を計画的に実施するなどして、本校在学中に英検 2 級に合格する生徒の数を平成 29 年度には 30 人以上に（平成 27 年度卒業生 20 人）。
- (2) ユネスコ・スクールとしての取組みを更に充実させるとともに、国際交流・異文化理解教育の活性化を図り、世界規模で考え、行動できる人材を育成する。
 - ・ユネスコ・スクールとしての取組みについて、テーマに応じて生徒会執行部や複数のクラブが主体的に関わっていける活動となるよう、推進していく。

4. 教員組織体制の強化と教育環境のさらなる整備

- (1) 学校トータルとしての広報活動を立案・実施する機能の強化。
 - ・渉外・広報に関する校内組織を一層強化。本校の魅力や入学者選抜におけるアドミッションポリシー等、必要な情報を積極的に発信していくため、中学校訪問・学校説明会等のさらなる改善や学校HPの計画的な更新等を進めていく。
- (2) 教育環境の整備とエコ対策の強化を図る。
 - ・学校として短焦点プロジェクターやタブレットPCの活用を推進するとともに、次世代のスタンダードとなる教育施設・設備を可能な限り早期に導入できるよう、あらゆる方策について検討を進める。
 - ・ペーパーレス環境の一層の推進に向けて、校内における連絡体制や各会議のあり方等を見直していく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>※「◎」「○」「△」は、数値またはその変化に対する学校の評価</p> <p>1. 概況（昨年度から改善した項目数） ・生徒…53 項目中 29 (58%) ・保護者…45 項目中 26 (58%) ・教員…79 項目中 40 (51%)</p> <p>2. 学校（または組織）に対する意識（肯定率(%) H27 → H28 以下同じ） ・生徒（学校に行くのが楽しい） 84.2 → 85.8 (○) ・保護者（子どもは学校へ行くのを楽しみに） 89.7 → 89.8 (○) ・教員（教育活動について日常的に話し合い） 84.6 → 86.1 (○)</p> <p>※ 様々な教育課題の共有、改善に向けた議論などを一層活性化させるため、組織的な取組みが必要。</p> <p>3. 学習指導等 ・生徒（わかりやすく楽しい授業が多い） 56.4 → 64.2 (◎) ・〃（プロジェクター等の活用） 86.9 → 90.7 (◎) ・保護者（授業がわかりやすく楽しいと聞く） 64.2 → 67.6 (◎) ・教員（教育活動全般を評価し次年度に活用） 74.4 → 75.0 (○)</p> <p>※ ICT機器の活用や主体的な学びなど生徒の興味・関心を高める授業が増え、生徒も積極的に取り組む姿勢がみられるなど、充実した学習になりつつある。</p> <p>4. 生活指導等 ・生徒（学校は生活規律等の確立に注力） 86.7 → 87.1 (○) ・〃（先生ははじめについて真剣に対応） 71.9 → 72.7 (○) ・保護者（いじめや暴力のない学校づくり） 95.1 → 92.4 (△) ・教員（カウンセリング・マインドを取り入れ指導） 82.1 → 80.6 (△) ・〃（問題行動に組織的に対応） 92.1 → 91.7 (△) ・〃（生徒指導において家庭と連携） 95.2 → 91.7 (△)</p> <p>※ 生徒・教員の意識をみると、校内の指導体制が一定以上整っており、落ち着いた雰囲気や学校運営ができており、保護者も協力的である。しかし、いじめ対応に関する数値は比較的高いが、不安を感じている生徒も少なからずおり、今後も適切な対応が必要である。</p> <p>5. 地域連携・広報等 ・保護者（学校は教育情報の提供に努力） 85.5 → 85.8 (○) ・〃（ホームページは役立っている） 68.3 → 71.6 (◎) ・教員（校種間連携を教育活動に生かす） 89.7 → 76.9 (△)</p> <p>※ 他校種との交流などを含め、地域連携を推進することにより、本校の教育力の向上につなげたい。また、学校の情報をメルマガやホームページでさらに発信する必要がある。</p>	<p>委員構成 6 名（大学准教授、会社役員、中学校長、小学校長、保育所長、PTA 会長）</p> <p>○第 1 回（6/27）「H28 年度学校経営計画について」 ・卒業生による進路講話を実施し、受験勉強の具体的な体験談を聞くことにより、課題が明確になり、取組みのモチベーションもあがると思う。 ・家庭学習の意義、進め方を教え、家庭学習の時間を保障することが課題である。 ・保健室登校などを行っている生徒についても、学校が細やかな丁寧な指導をすべきだ。 ・公開授業では、反省や情報を共有し、お互い刺激し授業の質を上げることが大切だ。</p> <p>○第 2 回（11/14）「授業参観と授業アンケートについて」 ・先生方の改善に向けた日々の取組みが、生徒自主的な活動を引き出している。 ・生徒同士で学びあうという取組みは、グループの作り方など先生方の工夫があるからスムーズにできている。主体的・能動的に取り組んでいる生徒が多い。 ・教員は授業において、生徒の思考や活動を後押しする立場。板書はメモのようなものとして書くのではなく、ていねいに内容を整え、書くことも大切。</p> <p>○第 3 回（2/6）「学校教育自己診断について」 ・学校教育自己診断で学校生活への評価、授業への評価が高いことは注目される。読書指導についての評価が低いのは、やはり活字離れが進んでいると考えるべきなのだろう。 ・社会で生き生き活躍するためには、高校までの教育が大切であると感じている。 ・授業アンケートの活用方法は？→授業アンケートの結果は個票として教員に返却。授業改善にむけての参考とする。 ・指定校推薦の枠は多いと思われる。一般入試で進学できるだけの実力を持ちながら、指定校推薦で進学を決める傾向もあり、改善を必要とするところ。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「生徒を伸ばし、伸びいく学校」の実現	(1) 全教員の授業力向上	ア 本校としての学習到達目標を改めて検討・策定した上、全教員が共有し、実践していく。 イ 授業アンケートの結果について、全教員が真摯に受け止めた上で、それぞれが改善に向けて取り組む。 ウ 教員相互の授業見学や他校等の先進的な実践を視察する機会を増やす。加えて、短焦点プロジェクターや書画カメラの活用等に係る研究を進め、実践者を増やす。	ア 各教科の学習到達目標を策定、公表する。 イ 授業アンケートにおける「満足度」の向上 (H27年12月実績3.05) ウ 自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率を70%以上に (H27年68%)	ア 各科目のシラバスに観点別目標を設定するにあたり、学習到達目標を具体化するとともに、「枚高マップ」をもとにした「教科スタンダード」を順次作成し、指導の指標を明確化できるよう進めている。(○) イ 第1回授業アンケート(6月実施)では、9項目中7項目で前年度実績を上回った(「総合評価」3.10→3.13、「満足度」3.05→3.08)、第2回アンケート(12月実施)では、9項目中6項目上回り(「総合評価」は3.11→3.13、「満足度」は3.05→3.08)となり、改善の成果が実を結びつつある。(○) ウ ICT機器の活用やグループワークに取り組む教員が増え、「教え方に工夫…」の肯定率は73.6%となった。(◎)
	(2) 夢と志を持った生徒の育成、進路保障体制のさらなる充実	ア 適切な時期を見定めて、「転換期指導」を充実。(「入学当初の中学生から高校生への転換」、「受験生への転換」等) イ 家庭学習を含め、今後における学習指導のあり方について、授業力向上PTを中心として検討・実践を進めていく。 ウ 学習指導、進路指導の充実・改善に外部模試等を積極的に活用するため、特に節目となる時期の模試については、より多くの生徒の受験を促す。また、各担任の進学指導スキルの一層の向上を図るための研修等を計画的に実施。 エ 「生徒支援委員会」の組織機能を一層強化するなど、個別の課題等を抱える生徒の支援体制を充実。 オ キャリア教育・人権教育・国際理解教育の一層の充実に向けて、外部講師等の活用など、これまでの実践を継承・発展させるとともに、総合的な学習の時間を抜本的に見直す等、新たなカリキュラムの策定作業に着手する。 カ 学校として読書活動の推進に取り組む。	ア～ウ 「学力生活実態調査」における生徒の家庭学習時間を平日、休日とも平均60分以上に (H27年1・2年平均平日38分、休日55分) また、同調査における「B2ゾーン」以上の生徒割合を2年生(2回目)で50%以上に (H27年31%) 以上の成果として進学実績を向上させ、現役生国公立大7人以上かつ関関同立80人以上の合格をめざす (H27年度4人、63人) エ 自己診断「悩みや相談に応じてくれる先生が多い」の肯定率を70%以上に (H27年63%) オ 新カリキュラムの策定。また、自己診断「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある、人権について学ぶ機会がある」の肯定率の向上 (H27年89%、82%) カ 自己診断(教職員)「学校として読書指導に取り組む」の肯定率を60%以上に (H27年41%)	ア・イ 「学力生活実態調査」において本年度は平日40分、休日57分となり、前年度よりわずかに増加したが、60分には到達しなかった。次年度も重要課題としたい。(△) また、2年B2ゾーン以上の生徒割合は、31%→41%に向上したが、B1ゾーン以上の生徒数については、1年生が114人で昨年比0.89倍、2年生は49人で同1.4倍となり、目標に達していない。引き続き2学年進級後の落ち込み防止を明確な目標とし、指導の改善を図っていく。国公立大学については4人であったが、関関同立については90人となり、目標を超えることができた。(○) エ 自己診断「悩みや相談に…」の肯定率は昨年とほぼ同様の63.2%(+0.2)であった。次年度以降も継続して取り組んでいきたい。(△) 生徒支援委員会を21回開催し、情報共有と早めの対応を心がけ、個別の対応にあたった。(○) オ 「将来の進路や生き方について学ぶ機会」については89.2%(+0.5)に、「人権について学ぶ機会」については82.5%(+0.5)と、ほぼ横ばいであった。次年度から、「総合的な学習の時間」の抜本的な改善に着手し、体系的に取り組む予定である。(1年生から年次進行の予定)(○) カ 読書週間などの工夫をしているが、昨年とほぼ同様の41.7%(+0.7)であった。(△)
2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現	(1) 学校行事の充実、部活動の活性化	ア 学校行事及びクラブ活動・生徒会活動の活性化を推進し、生徒のセルフ・エスティームの高揚を図る。 ・トレーニング室やセミナーハウスの一層の活用に向けて、必要な備品等を整備 ・文化祭・体育祭をさらに生徒主体の行事とするため、企画から運営まで、可能な限り部活動生徒等に担当させる ・リーダー講習会の充実 ・あいさつ運動、エコ運動、ユネスコ・スクールとしての取組み等について、生徒会と関係クラブ等が連携できる体制を構築	ア 部活動加入率を3ポイント以上増 (H27年75%) 自己診断「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率を90%以上に (H27年89%)	ア 部活動加入率は75%で変わらずだが、部活動は非常に活発に行われており、全国大会や近畿大会に出場するクラブもある。生徒会や各クラブは、地域の行事にボランティアとして協力したり、支援学校や保育所と交流したりする機会も設けている。(○) 文化祭・体育祭はできる限り生徒主体の企画・運営をさせており、「文化祭・体育祭・修学旅行…」は、89.0%(-0.3)と高い評価を維持している。(○)
	(2) 生活規律を確立させる取組み	ア 生活規律を重視する指導を明確化し、生徒・保護者の一層の理解を得る。 ・遅刻指導の継続 ・服装指導、頭髪指導の継続 ・交通安全指導の充実	ア 年間総遅刻者数1,000人未満維持 (H27年度863人) 自己診断「指導に納得・共感」の肯定率向上 (H27年生徒71%、保護者87%)	ア 今年度も日々の登校指導に取り組み、生活規律の徹底が定着し、年間総遅刻者数については749人(昨年比13%減)であった。(◎) 自己診断(生徒)「先生の指導には納得できる」については71.5%で昨年度と+0.5(○)、自己診断(保護者)「生徒指導の方針に共感」は89.7%で昨年度(87.0%)から2.7ポイント向上。(◎)
3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現	(1) 「使える英語力」の伸長	ア 英検やTOEIC等受験に向けた対策講習を実施するなど、「使える英語力」向上のための研(指導法の改善、ICT機器の活用等)を進める。 イ 新カリキュラムの検討にあわせ、これまで実践してきた国際教養科ならではの取組みを再検証した上、一層の改善を進める。	ア・イ 英検等(TOEIC、TOEFL)の合格者数の増加 (H27年度卒業生の在籍期間における2級合格20人、準2級合格83人)	ア・イ H28年度卒業生については、継続的に講習に取り組んだ成果等により、2級合格9名、準2級合格35名となった。(△) 府立高校国際関係学科設置校による「インターナショナルフェスティバル2017」に4名(内1名はフランスからの留学生)が参加。(○)
	(2) ユネスコ・スクールとしての取組みの充実・国際交流活動の活性化、	ア 海外修学旅行及び海外語学研修のさらなる充実、姉妹校との交流の推進。 イ ユネスコ・スクールとしての活動を一層充実させるとともに、適切に情報発信。 ウ 異文化理解の推進に向けて、外部講師等を活用した講演やゲストティーチャーによる授業等を各学年で実施。	ア 事後のアンケート結果等の分析 イ・ウ 大学・地域等と連携した取組みの継続、充実。 自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率90%を維持 (H27年90%)	ア オーストラリアの交流校から9月に12名が来校し、保護者の協力もあり、全校あげての文化交流ができた。オーストラリア語学研修の成果については、「海外滞在研修報告書」として取りまとめた。(◎) 台湾で実施した修学旅行については、現地の高級中学と有意義な交流ができた。事後のアンケートで、89%の生徒が有意義な学校交流となったと回答。(◎) ア～ウ 「国際交流活動が活発」については95.5%(+5.6)となり、目標を大きく超えることができた。(◎)
4 教員組織体制強化と環境整備	(1) 広報活動の一層の充実	ア 広報に関する業務を分掌機能の中に明確に位置づけることで、学校トータルとしての広報機能を充実。 イ 学校説明会の一層の充実及び中学校等が主催する進学説明会への積極的参加を推進。 ウ 「枚高メルマガ」等の活用により、保護者への情報発信を一層充実させる。	ア・イ 志願者の確保(昨年の選抜の志願倍率1.24倍) 学校説明会の参加者数1,200人以上を維持 (H27年は約1,400人) ウ 自己診断「枚高メルマガは役立っている」の肯定率向上 (H27年80%)	ア・イ H29年度選抜については、1クラス増の募集であったが志願倍率が1.21倍となり、志願者を確保できた。(○) 学校説明会については、今年度も事前申込みなしで希望者全員を受け入れる形で実施した。2日間で計1500人以上が来校、目標を上回った。(◎) ウ 自己診断の「枚高メルマガは役立っている」の肯定率は高い数字であるが少し下がった。(H28年77.0%-2.7)(○)
	(2) 教育環境のさらなる改善・充実	ア ICT機器の活用に関する校内研修の実施。 イ 会議室でのプロジェクター活用、校内イントラネットの活用促進などで、ペーパーレス環境を一層推進。	ア 各学期1回以上、ICTに関する校内研修を実施 イ 職員会議を原則としてペーパーレス化	ア 短焦点プロジェクター等を5台増やしたこともあり、ICT機器を用いた授業が増加した。生徒:授業などでICT機器を活用している。86.9→90.7(◎) イ 職員会議を原則としてペーパーレス化したため、スクールドライブや学校ポータルサイトの「掲示板」の併用となり、運用について職員意識は大きく改善した。(○)